

市民と市長との対話集会会議録【要旨】

令和 6 年 9 月 30 日 中津西地区区長会・中津西まちづくり協議会

開会

代表 あいさつ

今日は市長との対話集会ということで、テーマを 3 つ。1 に子どもが元気になれる環境づくりと学区の問題。2 に、全市のゴミ減量作戦の展開（ゼロカーボン掲げてみたものの）、3 に、企業誘致の現状と、若者が定着できる「働く場づくり」を設定したが、時間に限りがあるので、1 と 3 をどこまでできるか質問をさせていただきたい。よろしくお願いします。

市長

対話集会は、4 月から始めて今日で 20 回目になる。月に 3～4 回のペースで行っており、市民の皆さんにテーマを決めていただき、それに沿って対話をする。要望を聞くとか、こちらからお願いをするのではなく、テーマの解決策やより良い西地区、より良い中津川市にしていく方法をいろいろな話をしながら進めていけたらと思っている。この対話集会を市政に反映させていくために、皆さんからご意見をいただきたい。よろしくお願いします。

参加者

中津西地区としては、リニアでまちが活発化することで、子どもたちがこの地域に住みたいと思うようになってほしいし、他地域からも人が来てほしい。

中津西まちづくり協議会は、平成 27 年から構想を練ってきたが、コロナもあり、令和 4 年に発足した。安心・安定的な生活、就職先として魅力的な企業や役所、研究機関があり、地域や集団でお互いに相談し合え、地域の歴史や文化を誇れるまち、女性が勤めたいと思えるまちづくりをしていきたい。市外から来る人は、教育環境に着目するので、子どもたちにとって魅力ある地域にしていきたい。

今年のまちづくりは、子どもを主体とした活動をとということで取り組んでいる。

ぎおんぱジャンボリーや、3 世代交流を深めてやっていく子ども食堂と、子どもと地域の夏休み作品展は好評だった。

12 月には西地区の防災フェスタを防災カフェとあわせて実施し、お母さんや子どもたちにも参加をしてもらい、一緒にこの地域を良くしていこうという計画がある。

この地区には高校と大学があり、交流も順調。防災フェスタには大学生も参加する。

当地区のコミュニティスクールを接点として、子どもたちに地域や地域の歴史に関心を持ってもらう取り組みをしており、それなりに評価をいただいている。

今春、3 つの公立幼稚園の統合があり、子どもたちが大人になる頃には、本当に子どもがいなくなってしまうのではないかと心配。学校がいらないとなりがねないので、流入してもらいたいし、子どもにも残ってもらいたい。

この地区には手賀野と駒場があるが、それぞれ中学校区が異なるので、両方呼ぶという活動ができない。この先、人数が減ってきたときには、学区の問題も避けては通れない。

恵北地区のまちづくり協議会の活動では、小学校から中学校まで持ち上がりなので、行事では和気あいあいとすぐ溶け込んでできているようにみえる。当地区は学区の関係があり、そういうことができない。これは私の意見なので、皆さんの想いを市長にお伝えいただきたいが、いかがか。

参加者

西地区の防災フェスタに関わっている。子どもが住みやすい環境づくり、子どもが元気で

いるために母親が元気でカッコいい姿を見せられるよう、交流を深めていきたい。それには地域のつながりが大切で、まず母親が交流し合い、地域で安心安全を守っていきたい。

参加者

防災フェスタは今年が初めてで、安全安心部会の防災関係の担当が、非常にやる気があり頑張ってくれて、やることになった。西地区は避難所、避難所運営委員会が小中高の学校やスポーツ施設にあり、バラバラだったので、防災会議ということでひとつにまとめて、その成果として防災フェスタを開催する。

参加者

会長がテーマにしている「子どもたちが住み続けたいと思うまちづくり」のため、昨年「子どもたちが参加する防災訓練」のテーマで円卓会議を開き、出てきたアイデアをたくさん盛り込んだものが今回計画している防災フェスタになる。

母親が元気な地域は子どもも元気で、母親が笑顔でいなければ子どもも笑顔でいられないと思い、近隣市の団体の活動を参考にした。その団体のマルシェイベントに行ったが、多種多様な業種の方や、地域の方が関わって活発なイベントになっており、とても感動した。そこでお母さんたちの力はすごいと思ったのがきっかけで活動を始めた。

母親の交流の機会も少なくなってきたおり、子育ての悩み相談など、交流も促しながら進めていきたい。

この団体やPTAで企画し、防災関係者や地域の方、ボランティアで参加してもらった方には実践的な活動をしてもらい、広域避難所の自主運営を目指すイベントとして立ち上げている。予算的に厳しい面もあるのでサポートをお願いしたい。

子ども会の会長をやったが、当元が来て大変だった。コロナ明けの4年ぶりの活動で顔も名前も知らない中、一軒一軒訪問しながらまず顔合わせから始めた。会員数や予算、親の割ける時間は減って負担は増え、活動も窮屈な状況なので、配慮のうえ進めていただきたい。

「ぎおんば」の文化は大切だと当元を経験して思った。今年は中学生が実行委員に加わってスポットが当たるような形にしてもらい、とてもよかった。子どもたちも社会に出て人とつながっていくきっかけになるので、ぎおんばジャンボリーは続けていただきたい。

市長

各地域の対話集会では、地域の区長会やまち協の方、若い親さんたちから申し込みがある。自分たちの地域を何とか盛り立てたい、子どもたちが元気で過ごせる環境を地域で作ってきたいと、地域の大人も子どもが集まれるイベントを企画したりしている。防災フェスタなどはまさにそうで、そういった活動の中心は若い親さんが多いと感じる。旧市内では、移住してきた方が活動に参加し、自分たちの経験も踏まえてより移住者を増やしていこうという地域の活動がある。

移住者は中津地区が多いと推測するが、地域を変えようと移住者が活動しているのは、加子母、付知、川上、阿木地区。移住者がグループの中心になって活動できると、これからの人口減少へのひとつのアクションになる。防災フェスタなど、いろいろ検証しながら広げていけると面白いものが出てくるのではないかとと思っている。

参加者

区長会の情報量をみると、区長には負担をかけることはできないと感じた。地域の力は若い人の力だということを改めて感じたので、きっかけになればいい。自治力を低下させない

ためには、若い人を頼っていくことが必要と感じている。苦勞することばかりではなく、楽しいことには特に積極的に取り組んでいきたいし、そこから広がっていけばいいと思う。

参加者

最初は加わるのに勇気がいると思うが、どんどん広がって、2回3回とやっていくうちに、イベントって楽しそうということが、もっと伝わっていけばいいと思いながら作っている。

忙しい年代でなかなか出来ないが、今年はまず1回開催すれば楽しいということが伝われば協力者も増えると思う。

市長

子どもたちが主体的に参加して、子どもたち発信で何ができるのかをいろいろな人を巻き込んでやっていくことがとても大事。先ほど親の笑顔がないと子どもも笑顔がないという話があったが、まさにその通りで、やっている人たちがまずは楽しむということが大前提で、いかに多くの人たちを巻き込み、自分たちが主体的になってやっていけるかが大事だと思う。

参加者

帰宅途中の中学生になかなか声をかけることができない。すぐに市民安全メール、不審者、変な人が声をかけてきたとなるので、挨拶ができない。

子ども食堂を西地区でも始めた。今度3回目になるが、駒場と手賀野で交互にあちこちのクラブで開催していきたい。3世代交流をするので、名前は子ども食堂ではなく、「より場ごはん場ほっかほか」という。若いお母さん、家族、子ども、高齢者も、そこで交流し、話をするのを各区でやりたい。

他の区からもやって欲しいと声がかかった。コロナ禍でクラブや公民館を誰も使わず、にぎわいがなくなることがすごく寂しかったのではないかな。人が集まることは本当に楽しいこと。まず各地域に行って、交流をしながら盛り上げたいが、人集めに困っている。

参加者

子ども食堂の人集めの募集は、チラシを回覧板で西地区の方全員に配っている。小中学校で子どもにも配っている。

参加者

見ていない人がいる。回覧板だと、若い方になかなか伝わらない。子どもも家で学校でもらったチラシを出さない。

参加者

来ている人数は、オーバーしているくらいだが、誰が来てもいい形になっている。上手に用意しているので、オーバーしても拒むことはない。市長も1回来てください。

参加者

子どもに声かけやすくなり、「おかえり」が言える。登校下校中声かけしていけると、あそこの家の人だとか安心できると思う。まずはそこから始まる。

参加者

大人が声をかけると怪しまれるので、子どもからできるといい。学校で呼びかけてほしい。

参加者

ぎおんばジャンボリーでよくわかったが、子どもたちにある程度権限を渡すことは、子どもたちの自覚を促すので大事。子どもたちの力は本当にすごい。子どもたちが将来を作っていくということをまず我々が認識する必要がある。市長はジャンボリーに出てどうでしたか。

市長

娘が中学生なので毎年出ていた。今年は中学生が実行委員で、仲間同士盛り上がっていた。ぎおんばジャンボリーもそうだが、中学生なら任せればできるし、大人にはない発想でいろいろと違う企画をやってくれる。どんどんやっていけるといい。

この「ぎおんば」をやっている地域は、年に1回だが、集まって地域の小中学生の顔がわかり、初対面ではないので、まとまりやすい。だから大人がルールだけ引いてあげれば、あとはどちら方向に進むのかは子どもたちが考えながらできて面白いと思う。

参加者

昔は中学生がやっていたのに、なぜ大人の係になったのか。少し元に戻せるといい。

市長

今年、いろいろな地区で「ぎおんば」のことを聞いたが、子どものお祭りなのに、子どもの数より大人の数のほうが多く、何のお祭りかわからない。子どもの数が減り、参加者も減っているが、工夫してやっているので、大人が活躍できる場を準備してあげるのは大事なこと。

参加者

ジャンボリー終了後の実行委員会反省会で、良かったと言われると思ったら、改善点があった。子どもたちの活動が良かったから、子どもたちから刺激を受けて、この地区や中津川市をいいものにしたいというのが伝わったのだと思う。

市長

先週、南小学校で6年生が中津川市を良くするために提言する対話集会があった。いろいろな話がありとても楽しかったが、その中で、「ぎおんば」をもっと外にPRしてはどうかという話があった。主体的に子どもたちが参加している「ぎおんば」をどうやって盛り上げていくのかという、子どもたち目線での発想だった。単体では難しいが、おいでん祭の中の「ぎおんば」という位置付けで、一緒に発信していくことはできる。子どもたちがいろいろ考えてくれていることが非常にうれしかった。

参加者

中学生のタイ研修、「ぎおんば」、中学生サミットも驚くぐらい勉強しているし、表現できている。その培ったものを持った子どもたちが、残念ながら高校、大学に行くと、中津川に帰ってこないのが悔しい。何とか子どもたちが憧れる企業や施設、学校の誘致などを考えていかないと、みんな出て行ってしまい、中津川市は活性化しない。

参加者

優秀な企業はたくさんあるので、魅力を発信していただきたい。素晴らしい産業が中津川市にあると伝えて、企業が元気になることが大事。まち協も今まで企業との付き合いが手薄

だったが、これからは企業にも参加してもらい、活動をしていこうと思っている。

参加者

退職して地元に戻ってきてよかったことがあった。地区のクラブで先輩たちと卓球をやり、その後居酒屋で飲みながら、地区の歴史や若い頃の話聞いた。そこから人のつながりができ、人と接する機会は大事だと感じた。話したことがない人ばかりの集団だと、災害が起きた時、非常に困る。まちづくりの場で知り合うチャンスを作って、友達になれたらうれしいので、私は集まる機会を大事にしている。若い人たちもその中に少しずつ引っ張ってきたい。

参加者

首都圏や外への流出もあるが、家で携帯ばかり見ている子どもが多い。子育て世代としては、リアルな人とのつながりの場を多く作ることも大事だと思う。地域の知り合いとのつながりが密であるほど、出ていく人はいても、帰ってくる人も多く出てくるのではないかな。

防災フェスタには福祉、高齢者にも参加してもらいたいので、社協にご協力いただいて、避難のとき車椅子に使う補助具を子どもに引っ張ってもらう体験を盛り込みたい。教育、福祉などの団体が活動しているが、それをひとつに集約し、受け皿になるようなイベントになると皆がそこに集まっていいチームになっていくのではないかなと思っている。

市長

いざという時に地域の皆さんがお互いに助け合える関係性を作るのはとても大事。防災の話になるが、最初は自助、次は共助になるので、地域の皆や周りの人と一緒にどうするか。中津川市もまだまだできていないのは、その自助。災害時に何をすべきか、各家庭でどう備えるか、真剣に市民が自分のこととして考えることが必要。地震はいつ起こるかわからないが、中津川市でも年々線状降水帯など水害は確実に増えている。坂下方面では木曽川の水位が上がって国道 19 号が通行止めになることが年に数回起きている。家族や地域ですべきことを確認しておかないと、何か起きたときには相当混乱すると思っている。

参加者

「笑顔であいさつ運動」を展開してほしい。子どもたちから挨拶すれば大人も気持ちよく挨拶ができる。町で出会った人にも笑って挨拶ができれば、随分つながりができる。中津川市はみんな笑顔で挨拶ができる、そんな状態を作れば、防災も子どもたちの安全にも皆の手が差し伸べられるようになるのではないかな。西地区だけではなく市全体で広げていきたい。

参加者

防災も福祉も教育もそうだが、人とのつながりが共通する課題。どこの団体も仲間を増やそうとしているので、しっかり取りまとめて、まちづくりをしていく。自分たちが頑張ることによってこういうまちが作れると、子どもたちが未来を描ける環境を作っていくことが、このまちに帰ってくる理由にもなると思うので、市長にもぜひお願いしたい。

参加者

毎朝、横断歩道で子どもの安全を見守りながらあいさつするが、子どもたちからあまりあいさつは返ってこない。学校でもあいさつ運動はやっていると思うが、子どもには浸透していないのか、家庭で話してはいけないと言われているのか。あいさつが一番基本的なところなので、そんな現実もあるということ。

参加者

あいさつ運動はここ数年減ってきている。5年位前までは盛んだったが、コロナなどもあり落ちてきていると感じる。

参加者

中学のPTAのときに、黄緑色のベストを着てあいさつ運動をしたが、その時はベストを着ているし、あいさつしていいという意識があったが、大人が声かけを躊躇することはまだある。大人からも堂々とあいさつできるまちづくりができれば。「何曜日は絶対あいさつする」みたいなものを作ると活性化していくかと思う。

市長

総じて皆あいさつしてくれている気はするが、全員という訳にはいかない。コロナ禍もあり、大人も声をかけづらいような雰囲気があり、子どもたちもどう答えていいのかわからないというのものもある。笑顔で声かけあってあいさつができるようになれば素晴らしいが。

参加者

私が小学生の時は、学校から遠いところに住んでおり、帰宅途中に通りすがりの近所の人々が車に乗せてくれていた。それはもう遠い過去で、寂しい感じはする。今だと大問題になる。

参加者

若い女性が地域からいなくなることが怖い。当然男性も出ていってしまう。都会への流出を止めるために、子どもの時から地区の皆で助け合うことや、素晴らしいことを伝えていきたいと思っている。そのためには地域と市が一緒になって良くしていこうという観点が必要。別の話だが、この地区は県下最悪のごみの量とのこと。もう少し真剣になる必要がある。

市長

ごみの問題も今回のテーマだが、コロナ前に市をあげて減量に取り組んだ。その時は減ったが、また元に戻ってしまった。家庭の生活ごみと、会社や飲食店から出る事業ごみを比べると、家庭のごみが多く、ワーストワンに近い。各家庭が考える必要があり、リサイクルやリデュースなど、取り組み方は色々あるが、市が発信をしていくことからやっけていかないと減っていかないとと思っている。大きな問題なので、一緒に取り組む体制を作っていきたい。

参加者

ごみを減らすためにポスターを作ったが、なかなか減らない。どこで号令をかけるかといえば、やっぱり市でないとできない。協力するので、本当に減らす努力をしたい。紙のリサイクルなど細かい方法を、具体的にアピールすることが必要だと考えている。

市長

家庭でこれだけ減らすと、中津川市でこれだけ減るということを数字で示すことも大事だと思う。少しでもその積み重ねが非常に大きいということを発信していくことが必要。

参加者

ゴミ処理施設があと何年もつか。広域のごみ処理施設の話し合いが始まったが、市全体に広げていただきたい。当地区内には施設があるので、有効活用したいし、減らすことも含め

て、真剣に考える機会をもらいたい。

学区の問題だが、子どもの数の減少で中津地域で小学校は 2 つという状況になりかねない。その際、今までの学区だと非常に不合理な部分が出てくる。今すぐということではないが、将来を見越して学区の問題も真剣に取り組んでいただきたい。

市長

学区問題は昔からのことがあり難しい部分もあるが、これからを考えていくのに避けて通れないのは学校の統廃合。子どもの数がこれだけの勢いで減っていくと、子どもの数が多いといわれる中津地区でも、10 年、20 年、30 年先のことを考えれば、もう手をつけないといけない。一中と二中をひとつに、東、南、西小学校をひとつにするとか、何かしらしやっていかねばいけない。それが子どもたちにとって良い形になると思う。集団教育を学ぶ環境が学校だと思っているので、学区は大きく関わってくる。先ほどのお話のように、周りは幼稚園から小中学校まで皆一緒というところがほとんどだが、中津地区だけは違う。良い面は、他の学校から来ている子と交流ができる。一方マイナスの面も出てきてしまう。切実な思いがある中で学区は大きな問題。今すぐではないが、考えていかないといけない。

参加者

長い目で検討していけたら。中津川市が全国に誇れる地域になるよう、私どもも行政と一体になって協力したいと思うし、住む地域がよくなるように、今後もよろしくお願いしたい。

市長

中津川市は本当に広い。ここは街の中心にあり、人が多く地域の活動も大変な中でやっただけにしている。地域で交流する場を作って盛り上げていくことがとても大事。子どもたちの生活する環境を考えた時、大人がその環境を作ってあげなければいけない。

この間も小学校の対話の際に、今後リニアが開業すると東京や名古屋、さらに大阪まですぐ行けるようになる、そんな場所に皆さんは住んでいると話をした。こんな便利な場所にいる人はそうそういない、自然も豊かで生活がしやすく、なおかつ都会にも近い。だから一緒に中津川市をよくしようという話をさせていただいた。西地区の皆さんともこの地域を盛り上げていきたいし、私はいつでもみなさんとお話するので、気軽に声がけいただきたい。すぐに動けない部分もあるかもしれないが、中津川を、この地域をよくしていきたいという思い、向いている方向は一緒なので、協力をさせていただく。引き続きよろしくお願いします。ありがとうございました。

参加者

新しい市長になってどうなのかという声も聞こえてくる。今まで不満があり、期待が大きいということ。常に市民は、市長の動向に注目している。こういった会を大切にしているということは本当にいいことなので、またよろしくお願いします。ありがとうございました。